

メキシコ協力隊活動報告

～ 私の協力隊story ～



滋賀県立八日市養護学校 藤岡直子

16-1 メキシコ隊 養護

任地イダルゴ州アティタラキア



メキシコシティからバスで2時間。のんびりした田舎町です。

任地アティタラキアの風景



アティタラキア市の風景



配属先イダルゴ州特殊教育センター (CAM.) No.24



▼ 生徒数 約50名

▼ クラス数

乳幼児クラス 1クラス

学齢期(7-18歳) 2クラス

▼ 教員配置

校長 ソーシャルワーカー 1名

コミュニケーション教諭 1名

心理士 1名 クラス担任 3名

(事務員・用務員各1名)

そして私。

メキシコにおける特殊教育センター (通称CAM)とは？

- ✦ 障害を持つ子どもたちのための養護学校
- ✦ 障害の種類・程度はさまざま（知的障害、肢体不自由、聴覚障害、視覚障害、など）
- ✦ イダルゴ州の中に約26校（小規模校多し）
- ✦ JOCVは、最も多いときで10人、州内に配属（そのうち現職教員は3名）**全員1代目**
イダルゴ州でのJOCV知名度、ゼロ。

任地着任



2005年9月2日 任地アティタラキア市着任！

任地着任



市長さんまで出席の、
盛大な歓迎セレモ
ニーをしていただき
ました。



さあがんばるぞ！ しかし見たものは・・・？



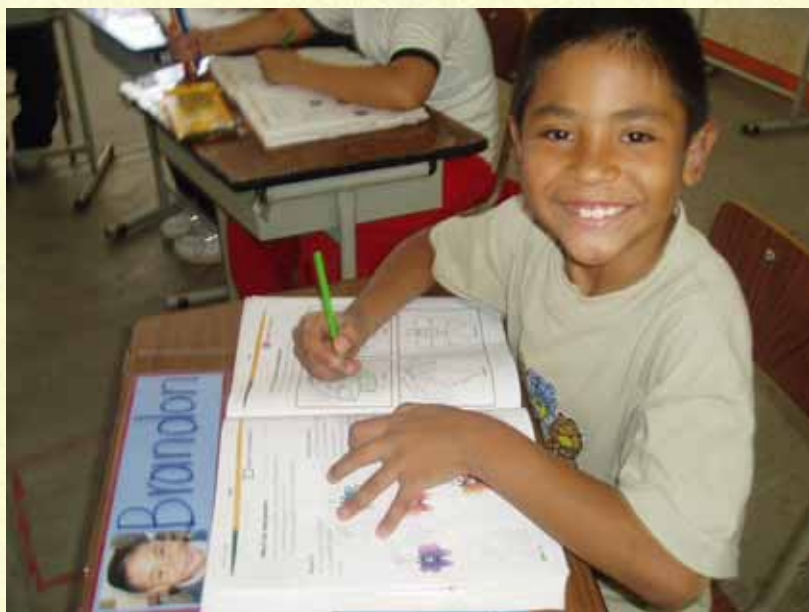
- ✓ 教室はごみだらけ。
- ✓ 時間割がない、授業の区切りもない。
- ✓ 「教科書のイラストを切ってノートに貼る」が学習？

さあがんばるぞ！ しかし見たものは・・・？



- ・「何もわからないまま、座っているだけ」の子どもたち。
- ・排泄の失敗は、親が来るまでそのまま放置する先生たち・・・。
- ・障害の重度な子どもほど、すぐ学校に来られなくなってしまう。

さあがんばるぞ！ しかし見たものは・・・？



- ✓ たくさんの聴覚障害の子どもがいるのに、コミュニケーションの指導ができない。
- ✓ 伝えられず、ストレスをためた子が、暴力事件を起こし、退学になる例も。

子どもたちのために、なんとかしたい！

私にできることから

体を使う活動が必要だ

集団でできる体育活動からはじめよう
音楽や図工も。

楽しく意欲のもてる授業の実践を

子どもにあった教材を作ってみよう

同僚へアドバイス・・・は難しい？

自分の実績を作ってから

授業をはじめたものの・・・？



- 授業でスペイン語がうまくしゃべれず、苦勞の連続。
- 子どもたちも活動に集中できずバラバラにトイレに行ってしまう・・・授業崩壊？
- 同僚の先生も自分の用事で忙しいよう。サポートしてくれない・・・。
- 道具も教材もない・・・

授業をはじめたものの・・・？



はじめは、幼児クラスでリトミックなどからやる。
子どもは喜ぶが、大人に理解されず・・・。

しかし、続けるなかで・・・



「**体育大好き！楽しいよ！**」
子どもたちが、楽しみにしてく
くれるようになる。



続けるなかで・・・



学校にあるものを使って、体育活動をいろいろ考案。

続けるなかで・・・



廃材の使い道もいろいろ。
ヒット作も生まれ、授業が
盛り上がる。



続けるなかで・・・



体育経験のない先生たちも、
少しずつ協力してくれるよう
になってきた！



続けるなかで・・・変わってきた？



全クラスで、週2回ずつ体育実施。そのため
「**ナオの時間割表**」も配る。先生たちが「うち
はいつなの？」と待ってくれるようになる。

続けるなかで・・協力も！



教材作りに保護者が協力してくれ、バルーン完成！

試行錯誤の中で・・・成果は。

「今日は体育あるの？」

「ナオ先生の授業は楽しいよ！」

子どもたちの授業への参加姿勢、格段に向上。
同僚も保護者も応援してくれるように。

「ナオは私たちが知らないことができるわ」

同僚の評価もますます？ちょっと地位向上。
体育を足がかりに、学校での活動を広げられた

ピアノの取り組み

・日本からもらったお古のピアノが大活躍。子どもたちがクリスマスイベントで「きらきらぼし」を演奏し、拍手喝采を浴びる。

保護者も大喜び！校長は鼻高々。

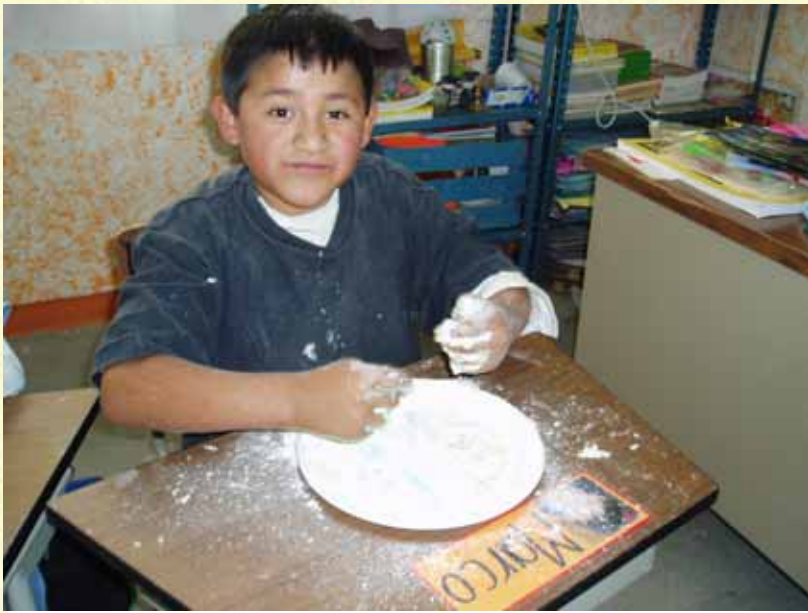


図画工作



大人が手を取ってきれいに書いてしまうメキシコ。自由に描く楽しさを伝えるのは..なかなか難しい。

图画工作



教材作り



子どもたちが、楽しく使える教材づくりに、一人せっせと励む。



教材作り

HORARIO de hoy

1		Rutina
2		Actividades de la mañana
3		ESPAÑOL
4		Desayuno
5		Matemática
6		Salida



教材作り

Horario de la semana

	Lunes	Martes	Miércoles	Jueves	Viernes	Sábado	Domingo
		HOY					
1	Rutina	Rutina	Rutina	Rutina	Rutina		
2	Actividad de la mañana	Actividad de la mañana	Actividad de la mañana	Actividad de la mañana	Actividad de la mañana		
3	Español	Física		Física	Español		
4	Dejando	Dejando	Dejando	Dejando	Dejando	CASA	CASA
5	Recreo	Recreo	Recreo	Recreo	Recreo		
6	Comunicación media	Artística	Música	Matemática	Matemática		
7	Grupo D	Grupo C	Grupo B	Grupo A	Comunicación media		
7	Salida	Salida	Salida	Salida	Salida		

目新しい教材に、先生たちも関心を持ってくれた。

Noviembre

Lunes	Martes	Miércoles	Jueves	Viernes	Sábado	Domingo
		1	2	3	4	5
		6	7	8	9	10
		11	12	13	14	15
		16	17	18	19	20
		21	22	23	24	25
		26	27	28	29	30
		31				

相手の仕事は 変えられるか？



・同僚の仕事に、アドバイスすることはやっぱり難しい。

ならば、相手が受け入れられる方法で。教材を作って使ってくれたら万々歳！？

活動の成果は...？

- 「ナオの時間割」効果
なんとなく全クラスが時間割を作るようになる。
- 「子どもたちが生き生きしてきたわ」
楽しい授業ができることに気づいてくれる。
- 「楽しいものなら、ちょっと使ってみよう」
教材貸し出し増える。自分で作ろうとする人も
- 職場での地位かなり向上！...意見を聞いてくれる
ことも増える。

~ ここまで来るのに1年半経過...ラストスパートは？ ~

イダルゴ州の隊員による 障害児教育研修会計画

- ▶ 今まで隊員が任地でやってきた活動を元に、イダルゴ州内で、**障害児教育研修会**をやろう！16-1の同期に先輩隊員たちも加わる。
- ▶ 隊員の専門は、**算数教育、音楽、美術、体育**と幅広く、実践内容も豊か。
- ▶ 内容は、**理論より実践重視**。実技を交えたもので、実際に活動を体験してもらおう！

実現に至るまで

- 2004年12月（着任6ヶ月） 企画開始
- 2005年3月 州教育省へ企画を持ちかける。
OKをもらうが、その後担当者が教育省を辞任。
- 2005年7月 調整員さんの助けを借りて再度交渉。
教育省の責任者が許可
いよいよ実現へ！
- 2005年9月 第1回開催にこぎつける
その後2月まで、7回実施

時間との戦い・・・のようなものでした。現職はつらい？

隊員による障害児教育研修会開始



2005年9月。隊員の任地の学校で、模擬授業を中心に音楽教育研修会を実施。

手ごたえあり。先生たちは興味を持ってくれた！

第2回 イダルゴ州UPN大学



- イダルゴ州の教員養成大学で、日本の障害児教育の実践を紹介する機会を得る。
- 将来、養護学校の教員になる学生さんたちに、日本の自立活動の様子や、自閉症児への指導方法などを、ビデオを見せながら紹介。
- 「日本の教育に学びたい」と学生さんたちが意欲を持ってくれる。

第3回 アティタラキア



- ▼ 私の任地では、作ってきた教材の紹介などをやる。
- ▼ 同僚が準備と発表をよく手伝ってくれ、心から感激。



体育を経験したことのない先生
たちが、子どものように楽しんで、
体育活動をしてくれました。



研修会、大成功！

各隊員の任地で開催



左は、現職教員による算数教育。算数指導法は関心を呼び、質問も多数。 右は、美術実技講習

最終回 州都パチューカ



2月終わり、すべての研修会が終了。最初は難色を示した州教育省からも感謝され、大好評のうちに終わる。

研修会大成功の裏には・・・。



私のスペイン語原稿を手分けして添削してくれた同僚たちの手助けがあつてこそ。

一人ではできなかつた。多くの人に理解され、助けられ、支えられていたのだと気がつきました。

ちなみに上 は、学校の教員の制服なのです。

研修会大成功の裏には・・・。



2年間、共に過ごしたメキシコ隊同期たち。みんなのおかげで、乗り越えられました。ありがとう。

任地を去る日



学校をあげてのお別れ会。子どもたちの出し物はすべて、「ナオが教えてくれた活動」でした。「ナオが教えてくれたこと、みんなですべて続けていくわ」といわれて涙...

私を支えてくれたメキシコの人たちに感謝

任地を去る日



お母さん方が、一人一品
ずつ、たくさんのごちそう
を持ち寄ってくれた。

障害児を取り巻く社会



ホームスティ先のパオラちゃんのお誕生日を祝う会
大勢の親戚・近所の人々・友人たちが集まりました。

障害児を取り巻く社会



日本とメキシコ、どちらが優しい社会なのだろう？

メキシコの生徒たち、元気で。



最後に



Muchas Gracias! México!! また会う日まで!

ご静聴ありがとうございました！